



# 桃里の風

射水市立中太閤山小学校  
学校だより第9号  
令和7年1月20日発行  
校長 堀 かおり  
Email:nakataikoyama@imizu.ed.jp

## 新年がスタート!!! -友達に会うことが、刺激になる-

郵便料金の値上げをきっかけに「年賀状じまい」をする人が増え、今年元日の年賀郵便物が前年よりも34%減ったという報道を目にしました。かつての自分も、慌ただしく年末に年賀状作成に追われたものでしたが、今では SNS を用いて簡単に挨拶や写真を交わすようになり、年末年始の負担がかなり減りました。今の子供たちが大人になる頃には、年賀状文化はさらに先細りしているのではないのでしょうか。



時代とともに、人とのコミュニケーション手段が変化していくのは、仕方のないことかもしれません。子供たちの未来には、きっとまた違うコミュニケーション手段が生まれていくのでしょうか。どうか、人の心と心のつながりだけは切らぬ温かい未来が待っていることを、祈りたいと思います。

さて、1月8日(水)に始業式を行い3学期がスタートしました。

「年明けて みんな元気で うれしいな」 ← (久しぶりに再会できた喜びが伝わったよ)

「お正月 楽しいけれど なんかヒマ」 ← (少し時間を持って余してきたのかなあ)

上記の俳句は、いずれも4年生の児童が詠んだ句です。



コミュニケーションの手段は多様化していくけれども、やはり、実際に顔を合わせて言葉を交わすことが一番大切ですね。自分の時間を満喫できる冬休みも、長くなると子供にとっては刺激がなくなるようです。人に会うことでエネルギーが出るのは、子供も大人も同じ。仲間と一緒に、意見を交わし、給食を食べ、遊び、協力し合って長なわを跳ぶ。そんな日常の積み重ねにより、子供は切磋琢磨し合って成長していくのだと改めて実感しました。3学期も、子供たちが新年に抱いた意欲を大切にしながら、教育活動を進めてまいります。新年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 本の楽しさを教えてもらったよ

「いみずおはなしの会」による読み聞かせを、1月14日(火)に全学級で行いました。



読み聞かせは、1本のろうそくに火を灯し、子供たちの意識を集中させることから始まります。「おはなしの会」の方々の秀逸なところは、本の内容をすべて暗記し、10分だろうが15分だろうが、終始子供たちの目を見ながら話し、静かな語り口で、物語の世界にいざなってくれるところ。しかも、何話もバリエーションをもっておられます。はじめは落ち着かない低学年の子供たちも、次第にお話に引き込まれて、聞き入っています。女優ぞろいのプロ集団「いみずおはなしの会」の方々のおかげで、子供たちが改めて本の素晴らしさを感じた1日となりました。



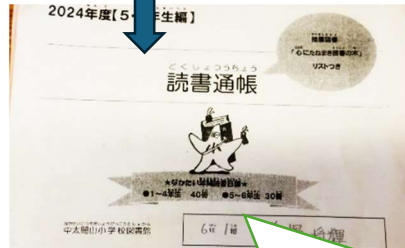
# 読書の体験を豊かにするための工夫を紹介します！

毎週月曜のきら  
きらタイム(朝)  
は読書



図書委員会の児童が読み聞かせをすることもあります。

**読書通帳** 全員持っています。  
個人の読んだ冊数を記録します。



30冊読むと3冊借りられる特別チケットがもらえる特典あり。

毎日10時~15時45分

図書館司書と図書委員が中心になって本の貸し出しをしています。



一  
学  
期

**中太読書くんをさがそう！**

図書室の本の中にミニしおりを30本隠して宝探し。見つけたしおりはプレゼント！



**図書宝くじ**

本を2冊借りたら、7桁の番号が書かれた宝くじ券を渡す。当選した人には景品があたる！



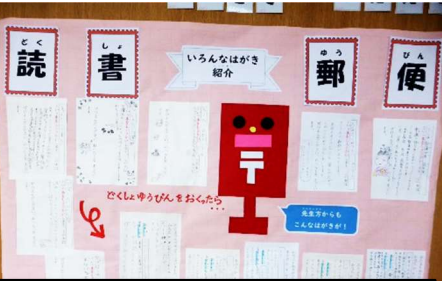
**図書クイズ** 4問答えて応募！



**セタイイベント** 本を借りた人が短冊に願い事を書いて飾ることができる。



二  
学  
期



**読書郵便** おすすめしたい人宛に、おすすめの本の内容を介绍してポストイン。受け取った人は読んだ感想を返事にしてポストに入れるよ。

**図書のプレゼントぶくろ** (本の中身はミステリー)  
ジャンル別に2冊ずつ本がラッピングされている本の福袋。借りてみるまで中身は分からない。



**読み聞かせスタンプラリー**  
読み聞かせに参加してスタンプを2つ集めるとミニしおりがもらえる。

三  
学  
期



**進化！**

**お年玉付き読書郵便**

読書郵便が進化。1月の読書郵便はがきに6ケタの番号が書かれたもの。1等から3等まで当選した人にはお年玉プレゼントがあたる！

**本みくじ**

本を借りた人はおみくじが引ける。大吉小吉...何が出るかな。



**絵馬コーナー**

図書室に来た人は、願い事を絵馬に書いて中太神社に奉納できる。

2月には本のキャラクターの「イラストコンクール」も企画中です。図書委員会や図書担当教諭を中心に、次から次へと斬新なアイデアを出して、中太っ子が少しでも本に親しむことができるよう工夫しています。